



次々と気迫の一撃

寄居町鉢形の北条氏邦ゆかりの地・鉢形城公園で9日、北条流鏑馬（やぶさめ）が行われた。北条流鏑馬実行委員会主催。秋に行っていた流鏑馬を今回から「寄居北條まつり」（10日）前日に開いた。

流鏑馬は、疾走する馬上から的をめがけて鏑矢（かぶらや）を射る日本の伝統的な騎射の一種。馬は同公園の外曲輪（そとぐるわ）に設けられた直線180メートルの特設馬場を疾走、射手が馬上から次々に矢を放つと、見物席から喝采が湧き起こった。

鉢形城は北条氏の北関東の拠点で、氏邦が城主だった。1590（天正18）年、氏邦率いる北条勢は前田利家率いる豊臣勢

寄居で伝統の流鏑馬

5万人に対し、3500人の兵で約1カ月にわたって籠城戦を展開したことで知られる。

披露した倭式騎馬会代表の森顯（あきら）さん（65）は「日本の歴史において重要な北条氏邦の城跡、国指定史跡の公園で伝統の流鏑馬ができたことに感謝したい」と語った。

射手として流鏑馬に初参加した鳩山中学校3年の石井百花さん（14）は「6射中5射しか当てられず、残念。この馬場は走りやすい。次は全部当てたい」と話した。

北條まつりは10日、同町の玉淀河原で勇壮な戦国絵巻を繰り広げる。

（江利川義雄撮影、記事）